



李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著

## 新日本語教育のための コーパス調査入門

くろしお出版、2018年発行、304p.

ISBN : 978-4-87424-771-6

三谷 彩華・滝島 雅子

### 1. はじめに

コーパスによる言語現象へのアプローチはさまざまな分野から注目され、2000年代以降、日本語教育分野の研究手法としても多く用いられるようになってきた。これまでも、コーパス研究の具体的な手法を説明する入門書はあったが、本書は、あくまでも日本語教育の現場の視点に立ち、そこで活用されることを目的に分かりやすく解説しているという点で、有用なコーパス入門書と言えよう。以下、本書の概要を解説し、日本語教育における意義と課題を述べる。

### 2. 本書の概要

本書は、初版である李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子(2012)『日本語教育のためのコーパス調査入門』を、日本語コーパスを取り巻く状況の変化に合わせて大幅に加筆・修正したものである。「はしがき」に述べられているように、本書の特徴は、(1)日本語研究の専門的背景やコンピューターの知識がなくても読めるように、平易な言葉を使って調査手順を説明していること、(2)すぐに実践できることを重視し、フリーソフトウェアや汎用的ソフトウェアを使うことを前提に解説を行っていること、(3)誰でも使用できるツールやデータを用いて説明していること、の初版を継承した3点に加え、新たに、(4)コーパスを利用した日本語教育研究の研究事例を幅広く掲載していること、(5)コーパスを使った研究をどのように計画し、論文にはどのような情報を、どのように盛り込むべきかを分かりやすく示していること、の全5点にあり、初版に比べ、さらに実践的内容になっている。

以下、2.1に本書の全体構成を示し、2.2以降で各パートを概観する。

#### 2.1 本書の全体構成

本書は、まず、第1章「コーパスを知る」(石川慎一郎)で、コーパスの定義やタイプ、日本語教育におけるコーパス利用やコーパス調査の留意点などを概論的に説明し、第2章

以降は、4部で構成している。

まず、第1部「日本語均衡コーパスの活用」(第2章～第4章：石川慎一郎)では、既存の日本語コーパスの代表格とも言える「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese：以下BCCWJ)を取り上げ、その内容や利用法を紹介している。第2部「教材コーパスの構築と活用」(第5章～第9章：李在鎬)では、既存のコーパスだけでは必要なデータが得られない場合に、自作コーパスから自力で検索ができるよう、印刷された日本語教材からコーパスを自作し、それを加工して検索するまでの過程を紹介している。第3部「学習者コーパスの構築と活用」(第10章：石川慎一郎、第11章～第12章：李在鎬)では、日本語教育の現場においてコーパスを学習者の実態把握に役立てられるよう、既存の学習者コーパスを概観した後、自作の学習者コーパスを構築・分析する方法について説明している。以上を踏まえ、本書のまとめの第4部「日本語教育とコーパス」(第13章～第14章：砂川有里子、第15章：李在鎬)では、日本語教育におけるコーパス活用の現状と今後の展望を述べるとともに、調査結果を論文化する際の留意点について記している。

各章の章末には、「さらに学びたい人のために」という項目を設け、コーパスについて勉強したい人のために有効な書籍や研究論文を紹介しているほか、「練習問題」によって、読者が理解度を確認することができるよう工夫されている。また、6カ所に配置された「コラム」では、各章のさらに発展的な情報が解説されており、読者の学習意欲に応える内容として評価できる。ただし、練習問題に関しては答えの掲載がなく、また、「コラム」が目次で示されていない点については、改善の余地もあると思われる。

## 2.2 第1部「日本語均衡コーパスの活用」

第1部では、BCCWJの概要を示すとともに、BCCWJを用いた具体的な言語調査の例を解説している。

第2章『現代日本語書き言葉均衡コーパス』入門』では、まずBCCWJ以前のコーパス開発の歴史を概観した上で、BCCWJの構築理念である「均衡コーパス」という考え方について解説し、BCCWJに収録されているデータの内容を紹介している。特に、BCCWJの信頼性の根拠となる「均衡コーパス」の考え方を解説している第2節は重要である。2.3.3で述べている「均衡コーパス」の解釈に関する留意点については、第4章で少し具体例を述べている。しかし、「日本語研究の専門的背景がなくても読める」ことを前提とするならば、さらに具体的事例を挙げて、その解決策も含めて示してもよいように思われる。

第3章と第4章では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた言語調査入門1」「同2』として、BCCWJを用いた言語調査の方法を具体的な分析例を挙げて紹介している。まず第3章では、BCCWJの具体的な利用法を紹介したあと、「ハッピー」「幸福」「幸せ」の3種の類義語の使用状況調査を例に、その分析手順を述べている。また、第4章では、日本語を言語種別ごとに区分して観察することの重要性を指摘し、分析例として、「私たち」と「私達」の表記の差を調べ、期間別、メディア/ジャンル別に概観している。いずれの事例とも、検索手順を分かりやすく提示しており、コーパスを扱うのが初めての読者でも、書かれた手順に従って進めば、実際に結果を得ることができるように工夫されている。読

者は、具体的事例を通して、内省だけでは到達できない知見をもたらし得るコーパス研究の重要性を実感できるであろう。

### 2.3 第2部「教材コーパスの構築と活用」

本書は、既存のコーパスを使って調べる方法を提示するだけでなく、自ら主体的に独自のコーパスを立案・実施し、研究を開拓していくための方法を示している点にも特徴がある。第2部では、「コーパスを自ら作る」ための具体的な方法を示している。

まず、第5章「教材コーパスの構築」では、自作コーパスとして日本語の教材コーパスを構築する方法を、具体的なサンプルタスクを使って説明している。特に、OCRソフトウェアを使って紙媒体の日本語教材を電子テキスト化する方法を示しており、自作コーパス構築に手軽に挑戦できる内容になっている。さらに第6章と第7章は、「教材コーパスの活用1」「同2」とし、テキストエディタを用いた文字列検索や形態素解析について解説している。第6章では、「秀丸エディタ」を例にインストールの方法や実際の検索方法をデモンストレーションしている。第7章では、難しく思われがちな形態素解析プログラムに関して、「茶まめ」という支援ツールを使うことで比較的簡単に使いこなせることを示し、形態素解析の工程を、分析データの読み込みから検索結果の保存まで詳細に述べている。続く第8章と第9章は、「教材コーパスの処理1」「同2」とし、エクセルを使って分析結果を処理する方法を紹介している。第8章では、第7章で行った形態素解析の出力ファイルをExcelで読み込み、語彙リストを作成する方法について述べている。特にピボットテーブルなど大量データを扱う際には欠かせない機能を具体的に教示している点は、初心者にはありがたい。第9章では、そこからさらに発展させ、形態素解析で得た品詞情報を、Excel関数を使って語彙表に付与する方法を提示している。Excel関数は、初心者にはハードルが高いが、解説が平易で分かりやすく、その壁を取り払う工夫が感じられる。

### 2.4 第3部「学習者コーパスの構築と活用」

第3部では、第10章から第12章の3章にわたって、学習者コーパスの構築と活用の方法について述べている。

第10章「学習者コーパスを知る」では、学習者コーパスを「学習者による目標言語の産出実例を収集したデータベース」(p. 149)と定義し、近い将来、言語教育や言語研究といった幅広い分野に大きく貢献する可能性を持っているものだと述べている。そして、日本語教育・言語習得研究・日本語研究における学習者コーパスの重要性を概観した上で、学習者コーパスの使用の際の留意点と主要な書き言葉コーパスと話し言葉コーパス各5種を紹介している。日本語教育関係者にとって、学習者の使用する日本語の特徴を知ることには重要である。学習者コーパスを用いることで、自身の日本語教育現場での内省にのみ頼ることなく、ビッグデータで傾向を探ることができるようになる。本書ではその方法を提示しているという点で、日本語教育において意義がある。第11章「学習者コーパスの構築」では、コーパス構築のための「言語標本の調査」をデザインの段階からコーパスを構築し公開するまでの流れと作業を詳しく解説している。コーパス構築にあたり、「どういう視点からどのようなものを、どのような方法で作るのか、さらにどのような形で利用する

のかという設計の観点」(p. 172) が求められるとし、基本の姿勢から学ぶことができるため、コーパスを構築しようとする初学者にとって必読すべき書であると言える。第12章「学習者コーパスの検索」では、学習者コーパスを利用した調査研究の方法とウェブブラウザで利用可能なオンラインコーパスを紹介している。調査の流れは第3章、第4章と大きく変わらないが、異なる点として誤用例への配慮の必要性を挙げている。しかし、学習者コーパスを使用する上で誤用例に対してどのような配慮が必要なのか、具体的な記述はこの章では見られない。コーパスの使用方法については、他の章と同様、事例に基づいて検索のデモンストレーションをしているため、分かりやすい。ただ、その一方で、何のために学習者コーパスを活用するのか、また、それが学習者に対してどのような支援に結びつくのかといった点がイメージしにくい。第14章で学習者コーパスを用いた研究を概観しているが、この章でも、学習者コーパスを用いた研究の流れに基づいた解説があれば、読者にとって学習者コーパスに対する調査がどのようなものか、さらにイメージがしやすくなったものと思われる。

## 2.5 第4部「日本語教育とコーパス」

第4部では、コーパスを日本語教育の現場に活かす方法や、コーパスを用いた研究事例、コーパスを用いた調査結果の報告の手順について述べている。

第13章「日本語教育支援としてのコーパス」では、日本語教師や学習者、辞書編集者が日本語教育に役立てるための道具としてのコーパスの使い方を紹介している。紹介しているコーパスはどれも無償で、日本語教育への活用の仕方についても述べているため、コーパスを初めて使用する日本語教育関係者にとって取り掛かりやすいものである。類義語や誤用例の抽出と比較、コロケーション情報の確認などさまざまな機能の使用方法をデモンストレーションしており、初心者が見落としがちな注意点についても述べている。また本章では、単なるコーパスの使用法の紹介にとどまらず、日本語教育にコーパスを活用するために必要な知識と技術を身につけることの大切さについても触れており、コーパスを使用する前に読むべき章である。ただし、学習者コーパスから得られた知見を教育に援用する際に注意すべきこととして、例えば石川(2008)は、「母語話者コーパスで検出された諸特徴の全てを教条的な規範やモデルにしてしまわないこと」(p. 227)と述べているが、本書では、この点について十分には語られていない。観察結果を扱う際に求められる「慎重さ」についてももう少し踏み込んだ記述があってもよい。

第14章の「コーパスでかわる日本語教育」では、前半で語彙表や言語テスト、難易度自動判定ソフトにコーパスを活用した事例を紹介している。後半では、コーパスを利用した日本語教育研究の文献を紹介しており、この章を読めば、実際にコーパスを用いてどのような研究が行われているかが分かるようになっている。「これまで日本語教師が主観的に行った判断の一部が、機械によって体系的になされる」(p. 248)ようになったとあるように、コーパスによって実現した応用的研究の成果を実感できる。第15章の「調査結果の報告」では、コーパス調査の結果を報告する文章の構成やその構成要素に盛り込むべき内容、データを表示する際によく用いられる図表についての留意点を詳述している。コーパス調査に限らず、日本語教育全般の調査報告をする際に、押さえておくべき知見が盛り込

まれているため、教師から研究者まで、日本語教育に携わる幅広い者に一読して欲しい内容と言えよう。

### 3. 本書の日本語教育における意義と展望

近年、書き言葉から話し言葉まで多方面にわたり、大規模な枠組みでのコーパスの整備が進み、コーパスを使った言語研究は、増々その可能性を広げつつある。日本語教育においても、本書が述べているように「これまで、語学教師の経験と勘に頼って判断するしかなかった表現の自然さや汎用性に関する問題に、コーパスにおける出現回数という科学的な指標が与えられることによって、よりの確な判断をほどこすことが可能になった」(p. iii) のは確かであろう。しかし、その一方で、実際の教育現場においては、コーパスの意義や有効性が十分に理解され活用されているとは言いがたい現状もある。コーパスをどのように使えば実際の授業や学習支援に生かせるのか、その方法論については、未だその可能性を探っている段階であろう。

今までコーパスになじみのなかった日本語教育関係者にコーパスへの扉を開いた本書の意義は大きい。今後、教育現場とコーパス言語学をつなぎ、日本語教師が日々の試行錯誤の中で実用できる、さらなる解説書の出版が待たれるところである。

「コーパスを用いた言語調査の醍醐味は、従来の日本語研究であまり扱われてこなかった現象や、必ずしも十分に説明されていなかった現象について、客観的証拠に基づく新たな知見をもたらす点」(p. 67) にある。本書をきっかけとして、日本語教育に携わる教師や研究者が、学習者と向き合う中で問題意識を持ち、コーパスを通してその真実に迫る試みを積み重ねていく先に、新しい日本語教育の姿が見えてくることに期待したい。

#### 参考文献

石川慎一郎 (2008) 『英語コーパスと言語教育—データとしてのテキスト』大修館書店  
 李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 (2012) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版

(みたに あやか 早稲田大学大学院日本語教育研究科・博士後期課程)  
 (たきしま まさこ 早稲田大学大学院日本語教育研究科・博士後期課程)